

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300660		
法人名	有限会社 アットホーム		
事業所名	アットホーム三谷 (3F)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷北通4-117-1		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigovosyoCd=2373300660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の自立心を損なわないよう、自由な環境で過ごして頂けるようにしている。特に女性利用者様は、整容に気をつかれるので、基礎化粧品や保湿クリームでお手入れされている。周囲に神社、公園、ドラッグストアがあるので、初詣や散歩、買い物にも同行し、気分転換を図って頂いている。100歳近い利用者様には、特に手厚くサポートさせていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の要望をできる限り叶えるために、職員は前向きに利用者に関り、どのように喜んでもらうのかといった視点でイベントの企画をしている。暖かい時には散歩をする等、何気ない日常の動きが利用者のためになるように工夫されている。利用者の生活に寄り添った関りをもつことで、入居時にはあまり食事ができていなかった利用者の食欲が回復し、食事が増えていった事例もある。併設のデイサービスと協力的な関係が築けており、利用者に対して多角的にアプローチする体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族の一員として、不安や寂しい気持ちに共感し日常的に積極的に会話して信頼関係を築くよう努めている。	家庭的な環境を目標に掲げて、職員も利用者の家族の一員になれるよう研修を行っている。新入職員にはフロアごとに指導係があり、行動や言葉使いを指導している。フロアごとに理念を掲示し、日々意識しながら働ける環境を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩したり、初詣に出かけたりする際、挨拶や立ち話が出来た関係を築けている。	地域の草むしりに参加しており、地域住民との話し合いで草むしりの範囲を決めた。町内会に入会し、地域住民から粗品や回覧板が回ってくる。カラオケグループのボランティアを受け入れていた実績があり、コロナ終息後には再開する意欲がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献になっているかはわからないが、住人として草取りに参加するなど、交流させて頂き、理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子、サービス等について包括支援センターの方からアドバイスを頂き、取り組みに活かすようにしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を書面にて開催している。LINEやアンケートを活用して、家族からの意見を吸い上げている。緊急事態宣言などが出なければ、地域包括支援センターも参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給されている利用者様についての相談にのっていただいている。運営推進会議に参加いただきご指導いただいている。	8名の生活保護受給者がホームで生活しており、保護課と連携して金銭管理等を行っている。市とは電話で連絡をとり、介護保険や生活保護の相談をしている。ホームの空き状況や、介護計画の情報共有もやっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為については、ミーティングなどで理解し実践に活かしている。言葉がけにおいても行動を制限しないよう注意している。施錠をしない環境で安全を保つよう努めている。	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回開催しており、その中で研修も行っている。減薬に取り組み、看護師の協力の下、実際に薬の量が減っている。職員への身体拘束に対する意識づけができてきている。	スピーチロックに関して、職員の認識を高めていくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないので、毎日の利用者様の様子、身体の状態等に注意して見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が受けておられる支援については、職員は把握している。権利擁護についての必要性や活用については今後もっと勉強する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、納得いくまで質問いただき、連絡をとり合い、十分に納得して頂いたうえで勤めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と職員は利用者様についてや、要望を共有するようにして、運営に反映出来るように努めている。	家族からの意見は、電話で聞き取っている。家族がホームへ来所する際も話を聞いており、家族が意見を言いやすい関係ができています。入れ歯の手入れの仕方に要望がある家族の意見を取り入れ、情報共有を行って実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容の細かな改善点など、職員と常に話し合い、よりよい運営に繋がるよう努めている。	ミーティングで職員から話を聞くとともに、個人的な話し合いを希望する職員には、その都度面談を行っている。フロアをまたいで勤務があったが、コロナの感染が心配だという意見を反映させ、フロア間の行き来をなくした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれに合った、職場環境、条件で向上心とやりがいを持って働けるよう個々について把握し整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの違いを把握し、長所を活かしながら成長できるようサポートしている。法人内での研修はできるだけ行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り同業者と交流できるよう機会を作っているが、人手不足と毎日の業務に追われ、なかなか実行出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話を聞き、不安な気持ちを共有し、信頼関係が築けるので、どんどん関わりを持ち本人が安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安などを十分、話を聞き信頼関係を築いている。電話でも相談を受け、様子を報告するなどしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様とよく話し、必要とされていることを判断し、支援出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほとんどの職員は、家族の一員として、また同士として良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との信頼関係を心から大切にし、その立場に立ち協力出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会を出来るだけ持ち、馴染みの場所へ立ち寄り懐かしい風景を見て思い出話を聞かせていただくこともある。住んでいた場所へお連れすることもある。	利用者と家族とで、行きつけのお店に行くことを継続している。「取り壊された後の住居がどうなっているのか見たい」との意見に対しては、実際に現地に連れて行った。LINEを活用して、家族とビデオ通話ができる環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格、性質を把握し、トラブルが起きないように注意している。また孤立することの無いよう職員が環境を作るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身近な地域におられる方が、いらっしゃるのでお会いすれば話をする機会がある。ご相談等気軽にご連絡頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	購入したいもの、行きたいところ(住んでいた家など)食べたいもの等、日常多くの会話をしながら聞き取り、出来る限り希望に添えられるよう努めている。	ホームの行事を行う際は、利用者から意見を聞いている。忘年会ではお酒の希望があり、ノンアルコール飲料の提供を行った。普段の会話の中から利用者の思いを把握し、内容は連絡帳に記録を残し、ホーム内で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族構成や関係や生活歴について、把握し、思いやりを持って接するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態、注意点などは毎月ミーティングにおいて一人ひとりについて把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化していく状態、様子をカンファレンスし、アイデアを出し合い介護計画を作成している。	職員が利用者との関りで気づいたことを管理者に報告し、その情報を介護支援専門員とも共有して介護計画を作っている。モニタリングは、現場の担当職員が行っている。日々の変化を見逃さないように、職員と管理者が気を配っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングを毎日行い、日々変化する様子やケアを工夫し職員全員が把握するよう努めている。ケアマネに報告し介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なことに耳を傾け、本人や家族の立場に立った支援をするよう心掛けている。リハビリ、機能訓練をレクリエーションの中で行うなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面では、細心の注意を払うよう努めている。その中で出来る限り季節感を味わったり楽しみを持ったりして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病歴によって、受けられている受診先があれば、ご家族と連携をとり、定期的なかかりつけ医により普段の体調管理を行いながら様子を伝えるようにするなど支援している。	入居時に、かかりつけ医と協力医のどちらにかかるとかを選択している。月1回の定期受診があり、通院には看護師が同行している。看護師は24時間オンコール体制をとっており、週に数回ホームに来て、利用者の状態を確認している。夜間の急変には管理者が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、排便コントロールや皮膚疾患等を報連相し、適切な受診うい受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や支援員の協力をいただき、スムーズな入退院支援が来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所されるときには、事業所としての指針を説明している。本人、家族等としっかり話し合い出来る限りの支援をしている。	重度化対応に関しては、入居時に説明して同意を得ている。ADLに合わせて、病院やリハビリ施設に転居を勧めている。終末期のための研修を行っており、マニュアルも用意してある。ADLに合わせた支援内容を家族と話し合い、同意を得て終末期ケアを行う準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に対して、常日ごろから急変時の対応について伝えているが、看護師、管理者に連絡が来て対応する事が多い。誤嚥の場合などは救急車の要請をするよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については通報、避難訓練を年2回行っている。避難経路、地震の際の行動判断については、普段から話題に出し、避難所の指定を受けていることを認識している。	年2回の避難訓練を行い、うち1度はデイサービスと共に消火訓練をしている。消防署の協力を得て、避難訓練と通報訓練を行っている。災害備蓄は7日間分の飲食料が用意されており、停電時用の発電機も置いてある。AEDを設置し、研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けについては、常に注意をお願いしている。人格、プライバシーを損ねないよう、一人の人として安心して過ごして頂けるよう努めている。	羞恥心に関する研修を行っており、意識を高めている。排泄時は特に気を配っており、工夫して声掛けをしている。配慮に欠けた現場を確認したときは、その場で管理者が注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と会話を多く持ち、希望や思いを聞き可能なことは実現している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴時間は決まっているが身体的負担のないよう配慮したり、居室で休みたい、散歩に行きたい等希望に沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性は、保湿クリーム等を使い整容されている。床屋(カット)では好みの注文をしていた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房があり調理されたものを配膳したり、片付け、台拭き等出来る事してもらっている。	誕生日には、皆で作ったお菓子を提供している。レクではゼリーやお好み焼きを作り、好評である。ADLIに合わせたきざみ食の提供や、腎機能の低下やアレルギーにも対応した食事を提供している。食事の好みは会話や残食から把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録し、水分は午前午後の摂取量の目安を明確にし確保できている。疾病により食事量が減ってしまった場合はラコール(栄養補助食品)を提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。夜間は義歯消毒し、歯槽膿漏など口腔異常がある方は、専用うがい薬を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりトイレ介助のタイミング、誘導の仕方を工夫している。夜間はオムツ等使用するが、日中は布の下着に替えるなど自立に向けた支援をしている。	日中は声掛けにより排泄を促し、利用者の残存能力を活用する支援を行っている。利用者毎にアセスメントを細かくとり、過不足のない支援の実践に繋げている。夜間は利用者の状態に合わせて対応ができるよう、情報共有を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、職員全員が排便状態を把握し水分摂取にも細心の注意を払っている。便秘により体調に及ぼすことの重大さについても勉強会にて理解するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった時間を楽しみにされる利用者には大浴場で、静かに入りたい方には個室、体調によっては清拭と、幅広く支援できるよう努めている。	週に6回の入浴の機会があり、大浴場も用意されている。コロナ下ではフロアごとに入浴する等、感染防止対策を行っている。しょうぶ湯やゆず湯の提供もあり、利用者が望めば、シャンプーの持ち込みも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った清潔な寝具で気持ちよく休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を把握し、処方の変更、追加などがあつた場合には、バイタル、体調の観察をしっかりと行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の外出、イベントでの飲食内容の希望を聞き少しでも楽しみを持って頂けるよう努めている。役割が自然と分担されており、進んで行動される方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必要なものがあれば買い物に行き、天気や気候の良い季節は近所の公園などに散歩にでかける。ご家族と食事に出かけていただくこともある。	毎日、ホーム周辺の散歩や近所のドラッグストアへの買い物に行っている。季節を感じられるように、ドライブに出かけて外の景色を見てもらっている。コロナ前には土日に食べるパンを利用者と買いに行っていたが、現在はできていない。コロナ収束後には再開を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には、現金を持って頂いている。化粧品や希望するものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からのお便りの他に、本人からハガキや年賀状を出したり、面会が難しい場合などは電話で話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた気持ちで日々過ごして頂けるよう共有フロアーの席位置を工夫している。	コロナへの感染防止の観点から電話による聞き取り調査としたため、現場確認をしておらず、コメント無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ決まった席以外にも移動して好きな場所でテレビを見たり、職員も一緒に家庭のような環境を作れるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際には、馴染みの物を持ってきて頂くよう説明している。ご家族と相談し安全で心地よく過ごせるようにしている。	コロナへの感染防止の観点から電話による聞き取り調査としたため、現場確認をしておらず、コメント無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	口腔ケア一つにしても、自分の名前を確認し、出来れば歯磨き粉を付け…というようにしっかり見守りしている。出来る事を安全にやっていただけるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300660		
法人名	有限会社 アットホーム		
事業所名	アットホーム三谷 (2F)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷北通4-117-1		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2373300660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

忘れやすくなってしまった利用者様が、安心し落ち着いて生活できるような、支援に力を入れている。利用者一人一人についての細やかなサポートが出来るよう、カンファレンスを毎月行っている。職員も環境の一部という意識を持たせ、声掛け、態度等について研修している。出来る限り、ADLを低下させないように生活の中で工夫し自然な形で運動していただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族の一員として、不安や寂しい気持ちに共感し日常的に積極的に会話して信頼関係を築くよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩したり、初詣に出かけたりする際、挨拶や立ち話が出来ると関係を築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献になっているかはわからないが、住人として草取りに参加するなど、交流させて頂き、理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子、サービス等について包括支援センターの方からアドバイスを頂き、取り組みに活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給されている利用者様についての相談にのっていただいている。運営推進会議に参加いただきご指導いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為については、ミーティングなどで理解し実践に活かしている。言葉がけにおいても行動を制限しないよう注意している。施錠をしない環境で安全を保つよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないので、毎日の利用者様の様子、身体の状態等に注意して見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が受けておられる支援については、職員は把握している。権利擁護についての必要性や活用については今後もっと勉強する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、納得いくまで質問いただき、連絡をとり合い、十分に納得して頂いたうえで勧めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と職員は利用者様についてや、要望を共有するようにして、運営に反映出来るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容の細かな改善点など、職員と常に話し合い、よりよい運営に繋がるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれに合った、職場環境、条件で向上心とやりがいを持って働けるよう個々について把握し整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの違いを把握し、長所を活かしながら成長できるようサポートしている。法人内での研修はできるだけ行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り同業者と交流できるよう機会を作っているが、人手不足と毎日の業務に追われ、なかなか実行出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話を聞き、不安な気持ちを共有し、信頼関係が築けるので、どんどん関わりを持ち本人が安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安などを十分、話を聞き信頼関係を築いている。電話でも相談を受け、様子を報告するなどしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様とよく話し、必要とされていることを判断し、支援出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほとんどの職員は、家族の一員として、また同士として良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との信頼関係を心から大切にし、その立場に立ち協力出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会を出来るだけ持ち、馴染みの場所へ立ち寄り懐かしい風景を見て思い出話を聞かせていただくこともある。住んでいた場所へお連れすることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格、性質を把握し、トラブルが起きないように注意している。また孤立することの無いよう職員が環境を作るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身近な地域におられる方が、いらっしゃるの でお会いすれば話をする機会がある。ご相 談等気軽にご連絡頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	購入したいもの、行きたいところ(住んでい た家など)食べたいもの等、日常多くの会話 をする中で聞き取り、出来る限り希望に添 えられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	家族構成や関係や生活歴について、把握 し、思いやりを持って接するよう努めてい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	身体状態、注意点などは毎月ミーティング において一人ひとりについて把握するよう 努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	変化していく状態、様子をカンファレンスし、 アイデアを出し合い介護計画を作成して いる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングを毎日行い、日々変化する様 子やケアを工夫し職員全員が把握するよう 努めている。ケアマネに報告し介護計画を 見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なことに耳を傾け、本人や家族の立場 に立った支援をするよう心掛けている。リハ ビリ、機能訓練をレクリエーションの中で行 うなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面では、細心の注意を払うよう努めている。その中で出来る限り季節感を味わったり楽しみを持ったりして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病歴によって、受けられている受診先があれば、ご家族と連携をとり、定期的なかかりつけ医により普段の体調管理を行いながら様子を伝えるようにするなど支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、排便コントロールや皮膚疾患等を報連相し、適切な受診うい受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や支援員の協力をいただき、スムーズな入退院支援が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所されるときには、事業所としての指針を説明している。本人、家族等としっかり話し合い出来る限りの支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に対して、常日ごろから急変時の対応について伝えているが、看護師、管理者に連絡が来て対応する事が多い。誤嚥の場合などは救急車の要請をするよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については通報、避難訓練を年2回行っている。避難経路、地震の際の行動判断については、普段から話題に出し、避難所の指定を受けていることを認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けについては、常に注意をお願いしている。人格、プライバシーを損ねないように、一人の人として安心して過ごして頂けるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と会話を多く持ち、希望や思いを聞き可能なことは実現している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴時間は決まっているが身体的負担のないよう配慮したり、居室で休みたい、散歩に行きたい等希望に沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性は、保湿クリーム等を使い整容されている。床屋(カット)では好みの注文をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房があり調理されたものを配膳したり、片付け、台拭き等出来る事をしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録し、水分は午前午後の摂取量の目安を明確にし確保できている。疾病により食事量が減ってしまった場合はラコール(栄養補助食品)を提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。夜間は義歯消毒し、歯槽膿漏など口腔異常がある方は、専用うがい薬を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりトイレ介助のタイミング、誘導の仕方を工夫している。夜間はオムツ等使用するが、日中は布の下着に替えるなど自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、職員全員が排便状態を把握し水分摂取にも細心の注意を払っている。便秘により体調に及ぼすことの重大さについても勉強会にて理解するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった時間を楽しみにされる利用者には大浴場で、静かに入りたい方には個浴、体調によっては清拭と、幅広く支援できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った清潔な寝具で気持ちよく休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を把握し、処方の変更、追加などがあった場合には、バイタル、体調の観察をしっかりと行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の外出、イベントでの飲食内容の希望を聞き少しでも楽しみを持って頂けるよう努めている。役割が自然と分担されており、進んで行動される方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必要なものがあれば買い物に行き、天気や気候の良い季節は近所の公園などに散歩にでかける。ご家族と食事に出かけていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には、現金を持って頂いている。化粧品や希望するものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からのお便りの他に、本人からハガキや年賀状を出したり、面会が難しい場合などは電話で話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた気持ちで日々過ごして頂けるよう共有フロアの席位置を工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ決まった席以外にも移動して好きな場所でテレビを見たり、職員も一緒に家庭のような環境を作れるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際には、馴染みの物を持ってきて頂くよう説明している。ご家族と相談し安全で心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	口腔ケア一つにしても、自分の名前を確認し、出来れば歯磨き粉を付け…というようにしっかり見守りしている。出来る事を安全にやっていただけるよう工夫している。		